

KINDAI CARELINK_{ケアリンク}

Vol. 4

2018 . August

INDEX

- 1 診療科からの活動報告
 - 整形外科
(脊椎グループ)
 - 麻酔科
 - 皮膚科
 - メンタルヘルス科
 - 結節性硬化症
診療連携
- 2 連携医登録について
- 3 紹介予約手続方法



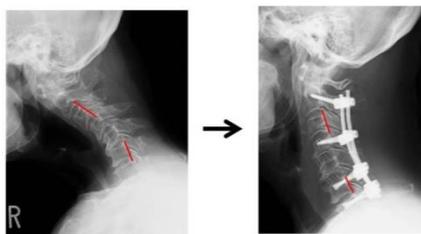
成人脊柱変形「首下がり」「腰曲がり」に 対する外科的治療

整形外科脊椎班では、時には全国各地から紹介される脊柱疾患難治症例に対して積極的な手術治療を行っています。なかでも近年の超高齢社会に相まって、高齢者の脊柱疾患が急増しており、特に厄介なのが「首下がり」や「腰曲がり」などの成人脊柱変形です。

我々ヒトは二本足で立ち歩き、頭部は首で支えられて、前を向くことができます。しかし加齢によって椎間板が変性したり筋肉量が減少したりすると「首が垂れて前を向けない」、あるいは「腰が曲がって立てない、歩けない」などの状態となり、日常生活は大きく制限されます。麻痺のないケースでは保存的に経過をみることもありますが、重症なものは手術で治すしかありません。基本は後方よりインスツルメンテーションを行い、脊柱の配列を作り直します(画像1, 2)。変形したまま固まっている場合は、後ろあるいは前からその部分を切除しまっすぐにします。あるいは狭くなった椎間板部分にくさびを打ち込んで高さを復元します。

附属病院ではハイブリッド手術室のハイテク装置を使用して、より安全かつスピーディーにインスツルメンテーションが可能です。非常に難易度の高い手術ではありますが、立てなかった患者さん、前を向けなかった患者さんが再び歩けるようになったときの満足度は非常に高いものがあります。

困っている患者様がおられましたら、是非ご紹介ください。



【画像1】 78歳の女性、首下がり
で前をむけなかった症例(左)。
頚椎にスクリューを挿入し、
ロッドに沿わせるように首の
配列を整えることで、患者さん
の症状は改善した。



【画像2】 76歳の女性、脊柱の後側
彎変形により立位保持が困難であ
った。前方から椎間板3か所に
くさびを挿入後、後方からイン
スツルメンテーションを行なった。
術後歩けるようになり患者さん
の満足度は高い(右)。

麻酔科

麻酔科のご紹介

当大学病院の手術室は17室あり、年間8,500件程度の手術のうち、麻酔科医が関わる全身麻酔管理は約5,000件である。未熟児から超高齢者までの心臓手術（TAVI：経カテーテル大動脈弁留置術を含む）、食道、胸部外科手術、喉頭・咽頭がん等長時間に及ぶ大手術が多い。また小児外科手術も多く、未熟児網膜症や血管造影室での小児の心カテーテルアブレーション手術にも麻酔科医は対応している。麻酔管理では患者の安全が第一であるが、さらに予後に大きく関わることを証明されている質の高い麻酔管理を実践している。特に、術後鎮痛には力を入れていて、硬膜外ブロックだけでなく、超音波ガイド下神経ブロックやオピオイドの経静脈的持続投与などを併用し、いわゆる multimodal analgesia（複数作用機序鎮痛法）を積極的に活用し、副作用を最小に、質の高い鎮痛を積極的に取り入れている。重症患者の術後管理にも力を入れていて、集中治療室（ICU）管理の充実を測り、特定集中治療室管理料1を取得している。ICUは、チーム医療により最新の知識と最良の治療を提供する、病院内重症患者の「最後の砦」でもある。さらに麻酔科独自の疼痛治療としては、腰痛治療の1つとして経皮的髄核摘出術（disk-Fix®）を開始した。

麻酔科医は、手術室やICUといったチーム医療の最前線で働き、安全で質の高い医療の提供に大きく貢献しようとしている。



皮膚科

皮膚科のご紹介

皆様、こんにちは。皮膚科の診療について紹介申し上げます。

皮膚科の1日の外来患者数は平均120人、入院ベッド数は22床です。

診療しているのは皮膚疾患全般ですが、特に皮膚悪性腫瘍、薬疹、難治性水疱性疾患、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚外科に力を入れています。

皮膚悪性腫瘍としては悪性黒色腫メラノーマ、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外パジェット病、日光角化症、ボーエン病、皮膚悪性リンパ腫です。手術や化学療法を行っています。

薬疹と難治性水疱性疾患は、診断確定に加えて入院による全身的な治療（ステロイドや大量免疫グロブリンの点滴など）をしています。

尋常性乾癬とアトピー性皮膚炎に対しては紫外線治療（ナローバンドUVBやPUVA）を積極的にしています。生物学的製剤による治療もしています。

皮膚外科としては前述した皮膚悪性腫瘍に加えて、良性腫瘍の手術も積極的にやっています。

その他専門外来として光老化、白斑・脱毛症、乾癬・天疱瘡外来、レーザー外来、漢方薬、女性外来などで担当医が専門的な診療をしています。

診断が困難な場合、治療に難渋している場合、重症の場合には、気軽にご紹介を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



メンタルヘルス科

メンタルヘルス科のご紹介

近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科では、うつ病、双極性障害（躁うつ病）、統合失調症、神経症性障害、児童思春期精神障害、老年期精神障害など、精神疾患全般の診断・治療を行っています。

外来診療では、特にうつ病・双極性障害といった気分障害患者が多く来院されています。また、双極性障害、児童思春期精神障害については専門外来による診療を行っており、気分障害を中心とした光トポグラフィー検査専門外来、認知症に対しては頭部MRI検査はもちろん、脳血流SPECT検査や脳PET検査など最新の画像診断を取り入れた専門外来があります。

入院診療では、一般身体科に入院した患者に求められる精神科治療（コンサルテーション・リエゾン）を活発に行っており、救命救急センターにおける自殺企図者への対応や緩和ケアにも積極的に関与しています。平成28年10月より精神病床が導入され、修正型電気けいれん療法やクロザピンによる治療抵抗性統合失調症の治療などにも対応しています。



結節性硬化症 診療連携

結節性硬化症診療連携を開始しました

【結節性硬化症とは】

結節性硬化症(TSC:tuberous sclerosis complex)は、脳、腎臓、肺、皮膚、心臓など全身のさまざまな場所に腫瘍をはじめとする症状が出る病気です。症状としては、てんかん発作や、言葉や読み書きなどの発達に遅れが出る(発達障害)、人とうまくコミュニケーションが取れなくなる(自閉症)、頭痛、吐き気、お腹の痛み、尿に血が混じる、血圧が高くなる、息苦しい、脈が乱れる、歯の表面にくぼみができる、などがあらわれます。

これらの症状がおきるかどうかや、症状の程度は年齢によっても異なりますし、個人差も大きいのが特徴です。

【診療連携とは】

結節性硬化症と診断されたからといって必ず病状があらわれるとは限りません。しかし、治療が必要な場合には関係診療科で治療方針を決めていく必要があります。当院では平成30年より結節性硬化症の院内診療連携を開始しました。関係診療科(小児科・神経内科・泌尿器科・脳神経外科・メンタルヘルス科・皮膚科・呼吸器内科・眼科・歯科口腔外科)と連携しながら総合的に治療にあたります。

【結節性硬化症診療連携チーム】

診療科	医師
泌尿器科	吉村一宏
脳神経外科	露口尚弘
神経内科	西郷和真
メンタルヘルス科	辻井農亜
小児科	井庭慶典
皮膚科	大磯直毅
呼吸器内科	佐野博幸
歯科口腔外科	榎本明史
眼科	橋本茂樹



【予約方法について】

受診を希望される方は、診察予約申込書(FAX用)を用いて、地域連携課へご予約下さい。

(結節性硬化症専用の診察予約申込書をホームページに掲載しております。また、地域連携課へ連絡いただきますと、お送りさせていただきます。)

連携医登録について

地域の医療機関との機能分担を図り、信頼関係のある質の高い病診・病院連携を推進することを目的とした連携医登録の主旨にご賛同いただける場合は、連携医登録させていただきます。

ICTを利用した地域医療連携ネットワークシステムについて

概要

地域の医療機関をつなぐ連携ネットワークを構築することにより、診療情報(カルテ情報、画像、レポート等)の共有が可能になります。

(近畿大学医学部附属病院)

情報提供施設(近畿大学医学部附属病院)は、「SS-MIX2標準ストレージ」にデータを出力し、地域連携サーバを経由して連携先の医療機関に診療情報を公開(24時間情報閲覧可)

※SS-MIX2標準化(及び拡張)ストレージへのデータ出力は多くのベンダが対応済みの標準化技術(SS-MIX:厚生労働省電子的診療情報推進事業)



セキュリティについて

情報参照施設や情報提供施設とデータセンター間はIPSec-VAPを利用して高度なセキュリティが確保された通信網を使用。

情報参照施設側に必要なもの

インターネットに接続できるパソコンが1台あれば、地域医療システムをご利用いただけます。

【パソコンの環境条件】

①Internet Explorer6.0～11.0が動作すること。

②OSのVPN設定を行うこと。

(VPN(Virtual Private Network)とは、インターネットに接続されている利用者間に、仮想的な通信トンネルを構築したプライベートなネットワーク。通信経路を認証や暗号化を用いて保護することにより、第三社が侵入することのできない、安全なネットワークです。)

③ウイルス対策の実施やWinnyなどのファイル共有ソフトを削除すること。

情報参照していただけるもの

- 患者基本情報 ●病名 ●処方歴 ●検歴 ●各種オーダ情報 ●医師の記載
- 看護記録 ●サマリー ●経過表 ●画像情報 ●各種レポート

その他

・当院へ通院歴のある患者から同意(別添)をとっていただき、同意書を近畿大学医学部附属病院地域連携課までFAXしていただくと、すぐにその患者の情報を公開します。

・施設基準に適合しているとして近畿厚生局へ届出されますと、

「電子的診療情報評価料」として30点算定していただけます。

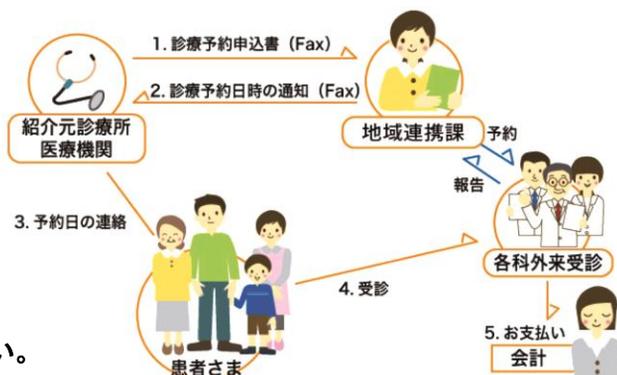
(診療情報提供料(Ⅰ)を算定する他の保険医療機関からの1回の診療情報提供に対し1回のみ)

ご希望される医療機関は、地域連携課までお申し出ください。

紹介予約手続き方法

紹介予約手続きは紹介元の医療機関を通じて行って頂きますようお願い致します。

- 1 診察予約申込書に必要事項をご記入のうえ、地域連携課までFAXをお願い致します。
- 2 患者さまのご希望の日時で予約をとり、「診療予約日時の通知」をFAXにて返信させていただきます。
- 3 患者さまに予約日時等をご説明頂き、診察予約日時のご通知・紹介状をお渡しください。



地域連携課 直通TEL:072-366-0257 FAX:072-365-7161

緊急患者紹介方法について

地域連携課

直ちに専門医療が必要な症例、
病院事務から専門医に電話回送

072-366-0257

救命救急センター (24時間体制)

重度外傷・重症疾患、中毒・熱傷、
その他の高度な救急医療

072-366-0250

脳卒中コール

脳卒中(発症24時間以内の麻痺、言語や意識障害、
急性頭痛を呈する軽症から重症の患者)、
くも膜下出血、脳腫瘍又はその疑い

072-366-0920

ハートコール

狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、
大動脈解離又はその疑いなどの重症循環器疾患

0120-145-810

周産期コール

産科救急(母体救急、胎児救急)、婦人科救急

072-366-0133

緊急時要請出動ドクターカーシステム

循環器疾患患者さまで緊急治療を要する場合、医療機関からの要請(相談)に応じ、
医師がドクターカーに同乗し、患者さまをお迎えにあがります。

ハートコール心臓血管センター

0120-145-810

心臓血管外科

072-366-0221 (内線3138)